

第43回環境審議会議事要旨

日 時 令和5年1月31日（火）

午後2時00分から3時10分

会 場 秋田市本庁舎5階第3、4委員会室

1 出席者

(1) 秋田市環境審議会委員（15名中11名出席）

石場加奈栄委員、岩田豊人委員、上野智明委員、菅原勝康委員、
菅原拓男委員、杉山秀樹委員、高橋敦子委員、竹田勝美委員、
津村守委員、縄田浩志委員、福岡真理子委員

(2) 秋田市環境部

黒澤亮環境部長、中川裕行環境部次長

環境総務課：村上義紀課長、原田浩地球温暖化対策担当課長、
長内克衛新エネルギー担当課長、

赤津順子課長補佐、畠山高朗副参事、齋藤正美主席主査、
藤田佑介主席主査、田近真由子主査、塚本晃太主任、
吉田紘貴主任、細川みずき主任、向川秋紀技師

環境都市推進課：伊藤妙子課長、佐藤俊主席主査

環境保全課：小野文彦課長、作田立子課長補佐、佐藤善克主席主査、
大淵啓矢主任

2 次 第

(1) 開 会

(2) 議 事

秋田市環境基本計画の中間見直しについて

その他

(3) その他

(4) 閉 会

秋田市環境基本計画の中間見直しについて、環境総務課が説明をし、質疑が行われた。

最後に、大気環境測定局廃止のその後の経過について、環境保全課が報告をした。

【質疑内容】

2 (1) 秋田市環境基本計画の中間見直しについて

委員

目の前ですごいことが次から次へと起きている。例えば、アメリカザリガニとカリフォルニアアカミミガメはもう6月1日から新たな外来法に対応しなくてはいけない。横手市とか小坂町ではブラウントラウトの問題が出てきている。次から次へとどのような形で対応していくのかある段階でやらないともう終わらなくなってしまうのではないかとというぐらい色々な問題が出てきている。そういった問題に対して戦略的な部分を我々もきっちり対応する必要があるのではないかと思っている。

環境総務課

世の中の動きがめまぐるしい中、今このタイミングでこの基本計画に秋田市としての基本的な考え方を皆様のご協力でもとめられたのは本当に意義深いと思っている。指摘にあった具体的にどう取り組んでいくかということについては、まずは環境基本計画なり、それに含まれる多様性戦略を読む人間が、市民を含めて我々も共通認識を持てるよう、対象の明確化みたいなものをしないといけないと思う。そういった意味で今の段階ではきちんと共通の言葉の使い方や対象の紛れのない明示の仕方というのを整理していきたい。その先に具体的な取組を私ども行政の方で考えていかなければならないが、そうした際には専門家のアドバイザーの皆様もご協力をいただいているので、ご意見を伺いながら具体化していきたいと考えている。

委員

基本計画の中間見直しについては、質問や意見はないが、65ページのコラムでニセアカシアがオオハンゴンソウに変わったとあるが、下にスペースがあるので文書は上のほうにまとめてそれぞれ写真が載っているとイメージができてより活用できるのではないかと。コラム的なものを是非デジタル資料に変えてもらえれば学校現場としてはより活用できると思う。

委員

色々な意見を聞いても予算、財源の関係でやれることやれないことがあると思う。市民100人会の方々の意見というのはそれぞれの立場で色々な立場の方々を抽出して意見を求められていると思う

ので、一番まず今何が必要か考えていただきたい。我々もどれが希少動植物なのか分からないので、知る機会だったり知らせる方法を考えていただきたい。ごみの分別については、秋田市はほとんど燃えるごみに出すことができるが、一方でききほどの卵パックのことなどどこまでがプラスチックごみでこうやってほしいなど行政の側からここは再利用できるとお示しいただければ、より理解が深まるのではないかと。

環境総務課

ごみの問題は市民の非常に身近な問題である。今回いただいた意見は市民の生の声ということで貴重なものだと思っているので、今回のパブリックコメントで終わりではなく、今後の施策に参考にさせていただきたい。

委員

先ほど学校での活用の話があったが、児童生徒の目にも触れる機会が想定されているのか。一般の方にも全体として余白が十分にとってあったり、コラムではフォントが違ったり非常にとっつきやすい。目標とする姿だけでなく、目の前の課題がこれだというのがわかりやすく示してもらえてもいいのではないかと。

環境総務課

空気や水、生物多様性についても喫緊の課題だと思っている。ごみの問題、地球温暖化対策等非常に大きな問題を抱えているのは事実である。環境基本計画の下にいろいろな計画がぶら下がっており、そちらのほうに具体的な課題や対応をそれぞれ記載している。そちらと合わせてご覧いただければという形になっているのでご了解いただきたい。

環境総務課

複数の委員の皆様からコラムが分かりやすい表記になっている、学校でどう活用していくのかという趣旨の質問があったが、現在秋田市では小学生向けの環境の副読本を用意しており、そちらも内容を更新しながら例年学校の方に配布して活用していただいている。また出前講座的なものを用意しており、個別のテーマに合わせてこちらの職員がその学齢に応じた説明資料を用意している。動植物を見てもらうとか、直接触れることができるように形などを工夫しながら、今回この基本計画に含まれている内容を噛み砕いた形で学校現場の児童に引き続き提供していきたいと考えている。

委員

73ページの副読本を見ながら聞いていたが、今おっしゃったことを記載してくれるといいと思う。例えば副読本についての説明のところでもいいのでちょっと入れていただければと思う。

委員

65ページについて、例えば外来生物法であればオオクチバスは

環境部長	<p>企業がやれば1億円、個人がやれば300万円である。生態系に対する影響がそれだけ大きいから懲役もあるし罰則もある。子どもたちに対するインパクトを考えると色々な書き方がある。</p> <p>資料4素案の104ページ、105ページにあるとおり、今回ご審議いただいている秋田市環境基本計画はこれで完成というものではない。このPDCAサイクルの流れの中でこれからも必要に応じて見直していく。環境分野も日々新しい問題が生じるが、その都度この計画書に盛り込んでいくと区切りがつけられない。まずは今回どこかで1回区切りをつけて、これからも色々な意見が出てくると思うが、それは今後のこの進行管理、PDCAサイクルを回していく中で必要に応じて見直し、この計画をその都度より良いものに変えていきたい。</p>
委員	<p>国際資源学部の学生は卒業論文などでエネルギーに興味を持つ人が多いが、この情報はというときになかなか公開されていないものもあるので情報WEBサイトも工夫されればいいのではと思う。もう一つ少し難しいと思うが、洋上風力発電などを市民や学生もいろいろテーマとして取り上げたいと思っているが、管轄が国と県と市があり、かつ産業なのか環境なのか、コラムなどでそういうことを含めた説明があるとわかりやすいのではないか。</p>
委員	<p>全体像の話が出ているが、いろいろな部局を越えてどうまとめるかの図式になると思うので大きなものにならざるを得ないと思う。</p>
委員	<p>秋田県が環境先進県という用語を使っている。できれば他の県、都市よりはもっと先進的に何かアピールできないかと思う。</p> <p>13ページで工業プロセス分野で排出量が増えているという文書があり、14ページの図面で二酸化炭素の排出量の区分けで産業部門と工業プロセス部門がある。産業と工業プロセスを一緒にしてもいいのではないか。</p>
環境総務課	<p>産業部門は産業をやるために化石燃料等を使うことで出てくるCO2である。工業プロセス部門は製造工程で化石燃料以外で出てくるCO2である。</p>
委員	<p>41ページの脱炭素社会について小規模水力は秋田市に入っていないのか。</p>
環境総務課	<p>残念ながら秋田市には小規模水力導入の事例はない。仙北市や由利本荘市では用水路を使った小規模水力発電が稼働していると聞いている。秋田市でも調査事業をやったことがあるが、採算性がかな</p>

り厳しいという結果で見込みがないというのが現状である。

委員 67ページにミズバショウと滝の写真がありそれだけだと特定できないが地名が書いてある。61ページの調査をしている写真が2枚あり、どういう機械を使って調査しているかは分かるが、なぜここにしたのか意味があるからその場所を特定して調べていると思うが、実在している写真の場所が分かったほうがいいのではないか。

環境保全課 61ページの写真であるが、こちらは調査地点が多数あり、例示的な写真のため地名は記載していない。

委員 どこどこで撮ったという情報が必ずしも重要ではないと思う。

委員 これは無作為ではなくいろいろなところをとってどこでもクリアしているという調査なのか。

環境保全課 例えば道路騒音だと75地点前後を基準ポイントとし5年で一巡するような形になっている。

委員 99ページの協働による環境保全の取組について、この数行で終わるような内容ではなく、環境教育にお手伝いできる情報提供などもいれてもらえれば環境教育も深まるのではないか。

委員 例えば46ページ、47ページのコラムのところで一番最後にサイト内検索と書かれているが、URLが記載されていればクリックしただけで次の情報が得られる。子供たち1人1台タブレットの時代なので授業内で使うとしてもそれがあると非常に広がり方が早いのではないかと思う。

73ページの小学生の副読本もURLをつけて小学生が授業でなくても自分で学習したいタイミングで学習できる工夫をしてはどうか。

基本計画の出し方で紙ベースでは資料編もついているが、世界の動向はどんどん動いている。そのページにいくと調べやすいなどの関連リンク集を検討いただけるとありがたい。78ページからの分野横断的取組というところが素晴らしくいいと思うが、オンライン配信する際には1冊あげるのではなく、カテゴリーごとにやっていただくのと非常に扱いやすいし見やすい。皆が改めて見直すときもいいのではないかと思う。

環境部長 ホームページにPDFでただはるだけではなく、公開する際はサイトに関連したリンク集やページからページへ飛べるようなもっと見やすくわかりやすい公開のしかたについても今後検討していきたい。

- 委員 121 ページ以降の用語解説についてコンパクトにまとめられているので良いと思うが、立場によってそうでないと思っている人もいるかもしれない。例えば環境省のWEBに関連しているなど大まかな出典でいいので書いたほうがいいのではないか。
- 委員 別の考え方もあって、世界でいろいろな動きがあるが、秋田というところに地に足をつけてあとからゆっくりついていってもいいのではないか。必ずしもそのリンク集があればいいではなくそれだけ調べる力がある人は自分で調べると思う。
- 会長 各委員から全体的にそれぞれの専門の立場で感想をいただいた。今日の各委員の意見を伺うと多少細かい表現は事務局内で検討いただくと思うので私が会長の立場として見させていただく。
この素案を私に一任させていただきたいと思うがどうか。
- 各委員 了解。
- 会長 それでは答申案がまとまったので2月15日に予定していた次回審議会は開催しないということにさせていただく。

以上